

ものづくりにおけるリモート化にむけて

企画担当理事：加納誠介（産業技術総合研究所）

1. はじめに

- ・第 191 回研究会は、アフターコロナを考えたものづくりの現場に向けた取り組みを紹介してもらった。
- ・講演と講演の間に、見学に代わる「ビデオを使った研究のデモンストレーション」を見ていただき、質疑応答を行った。

2. 研究会概要

2. 1 開催概要

参加者 38 名を迎えて、オンラインでの研究会を実施した。起業家イアラの参加者が 20 名以上と多く、盛況であった。

2. 2 プログラム

13:00～13:05 **開会挨拶**

レーザ協会会長 池野 順一

13:05～13:35 **講演 1**

「生産・加工現場におけるヒューマンデジタルツインの可能性」
産業技術総合研究所 多田 充徳 氏

13:35～14:05 **講演 2**

「人・ロボット協調における産業用ロボットの AI 化」
産業技術総合研究所 堂前 幸康 氏

14:05～14:55 **特別企画 産総研臨海副都心センター CPS モデル工場 見学会：オンラインデモ**

（人と機械の協働作業に向けた研究のご紹介）

産業技術総合研究所

15:10～15:50 **講演 3**

「ものづくりのリモート化がもたらす変化の実例」
トルンプ（株） マール・アンドレ 氏

15:50～16:30 **講演 4**

「IoT ソリューション V-factory」について
（株）アマダ 齊木 睦 氏

16:30～16:35 **閉会挨拶**

レーザ協会副会長 徳永 剛

3. 講演内容の詳細

講演 1）工場に導入されるロボットの課題はティーチングや人との協調にある。この課題を解決するため、人の動きを学習させて、その情報からロボットの動作を制御する研究を行っている。

講演 2）人の動作をデジタル化する方法として、2つの方法を紹介。また、デジタル化した人の動きからわかることとその情報の活用について紹介いただいた。

講演 3）これからの工場のあり方として、ものづくりのリモート化が検討されている。リモート加工を想定したトルンプの取り組みを紹介してもらった。

講演 4）アマダでは工場・加工機から得られるデータや情報を活用した新たなものづくりを提案している。この内容について紹介する。

4. おわりに

ご講演頂いた講師の皆様には御礼を申し上げます。

今回は、**令和 4 年 2 月 21 日（月）** 13 時から、「先端レーザ光源と応用技術」のテーマで 4 名の第一線でご活躍の講師の皆様をお招きしてお話を伺います。（電気通信大学での対面講演と WEB のハイブリッド開催の予定となります。）奮ってご参加ください。



産業技術総合研究所 臨海副都心センターにて研究を実施している インダストリアル CPS 研究センターの堂前幸康チームリーダーによるデモンストレーションの一幕